

## 第2回脱炭素実行ビジョン策定専門家会議議事概要

### ■日時

令和4年11月2日（水）15:00～17:00

### ■場所

池田町能楽の里文化交流会館 2階大会議室

### ■出席者

#### (1)委員

富山国際大学教授 上坂委員                      福井工業大学教授 三寺委員  
福井県立大学准教授 中井委員                      (株)モリアゲ 代表取締役社長 長野委員  
福井県庁 岩井渉オブザーバー

#### (2)事務局

池田町役場 杉本町長      溝口副町長      環境政策室 森川室長 橋本

### ■議事次第

1. 開会
2. 町長挨拶
3. 説明事項

池田町脱炭素実現ビジョン（素案）

4. 質疑・意見交換
5. 閉会

### ■意見概要

#### (1)シナリオ全体について

- ・社会情勢考慮シナリオの中身を見てみると、住宅の省エネ化や次世代自動車の普及、燃費改善などが一定割合入っている。放っておいてもできるという訳ではないのでは。どんなシナリオを作成されているのか。
  - ➡ 多少の乖離はあるかもしれないが、国が省エネ法で求める範囲においての省エネ努力を当然のこととしてやるだろうという認識で計算している。社会情勢考慮シナリオにおける2040年時点でのCO2排出量11.52千tを、先導シナリオの6.13千tまで下げることが真水の池田町民の努力となるように整理している。
- ・種子島のフィールド調査の事例で、小中高生を対象にアンケートを実施すると、地元の魅力・誇りを感じていない人が多かった。しかし地域を知ること、魅力を学ぶことで、ふるさとに誇りが持てるようになったことがあった。このように教育効果は大きいことからビジョンの推進のためにはキラキラした未来、その中で定期的にビジョンなりロードマップをアップデートして未来を感じさせるようなストーリーをつくるというのが大切。

- ・ 池田町の目指す姿を示すことが重要。小さい小規模の町だからこそ、地域住民との信頼関係は密なものがあるのではないか。町興しは、誇りを再生する・興すことであり、信頼関係を築くことが誇り、価値を呼ぶという好循環。和気あいあいと、世界の課題に挑戦している池田町というメッセージを発信するとよい。
- ・ 東京での仕事は歯車としてであり、私でなくても良く、一方で地方に行くと私が可能性を作ることができる、私の一挙一動がこの町の未来に関係できるという充実感がある。こうした意欲ある外の力を借りることも有効。

## (2)再エネについて

### ①小水力発電について

- ・小水力発電の導入見込み実施調査の結果、想定していたよりも落差が大きいところが多かった。この規模であれば全く問題なく利益がでる上、大変有望。また部子（へこ）川上流の籠掛川の上流エリアの民間業者による実地調査の結果をみると有望だと思う。
- ・用水路をどう活用するかという点では工夫が必要である。上島用水を利用することで50kW以内ではあるが発電の可能性もある。
- ・小水力発電は、お金が掛かる仕事。大体100kWあたり1億円の建設費。水海のような民間投資、尚且つ地域住民参加が一番良い。FITからFIPに移行した今の状況では公共ベースで進めていく方が良いのかもしれない。民間事業者が行うのはきついということは確か。
- ・2050年以降、人口減少によってエネルギー消費が激減し、採算が取れなくなって潰れていく再エネがあるとすれば、設備寿命の短い太陽光発電であろう。池田町は民間の太陽光発電はあまり視野に入れていないため、良いと思う。小水力発電は確実に50年もち、きちんとメンテナンスを行えば100年以上稼働することから、短期では太陽光+小水力、長期では小水力で進める考え方が必要。

### ②太陽光について

- ・脱炭素の目標から逆算して太陽光発電導入必要量を算出し、そこから民間部門の屋根面積の35%と設定している。雪国で太陽光パネルを導入する場合の公共施設では陸屋根となるが、架台を設置してパネルを載せる方法は積雪荷重もありどうしても効率が悪いので、今の段階では技術的に難しいものとなっている。

## (3)森林活用・森林吸収について

- ・木材を使わないと脱炭素できないということであれば、新築の家や建て替える家がどの程度あるのか、公共施設管理総合計画も作っていると思うため、今後できる再編や改修・補修予定の公共建築、農家の畜舎など、木材利用できるところを積み上げ、どのくらいの木材を利用することになるのか試算して、目標達成にど

のぐらゐの措置が必要かを明らかにする必要がある。役場側の公共建築の目標を明記して民間に呼びかけていくと、民間も鼓舞される。ここまで記載している自治体はないが、やるのであれば会社としてもぜひ一緒にやりたい。

- ・(間伐について) 意欲的な目標だと思うので、間伐を促進するための町民の行動についてもどこかに具体的に記載すると良いのではないか。
- ・森林吸収源について、J-クレジットにおいては、再造林したら先取りしてCO2吸収量をカウントして良いというルールになっており、合板を含む製材も炭素固定できることになっている。町の計画として記載する場合は、環境省の報告向けに温対法上のマニュアルに沿う必要がある。
- ・池田町としては森林吸収でCO2排出は実質ゼロでも福井県全体としてみたときに、下流域(福井市)との関係は重要。そこの関係づくりに排出権のことも考える余地はある。

#### (4)家庭・生活について

- ・行動変容のメカニズムとして、無関心期、関心期、準備期、実行期、維持期、という形でフェーズがある。そのフェーズごとにどのような戦略を打っていくか、提示をしてはどうか。
- ・行動変容の使い方の一つは、価値観・理解が高まるまでの「一時的」なもの。例えば、脱炭素と言われても、ちょっと難しかったりして、地球がまずいことになっていても行動に必要な均一な理解が全体として始まるまでには時間がかかるため、それまでのつなぎとして行動変容を使うことが良いのではないか。
- ・デフォルトバイアスとは、人間はいつもしている行動から変えるのが苦手だというもの。わかりやすい事例や理論は多々あるのだが、その効果は地域性で結構変わる。池田町は密なコミュニティを持っているということであったため、都会よりも他者比較や他の人の目を気にするという理論が効くのではないか。
- ・行動変容を促すナッジと呼ばれている手法は馬鹿にできない政策。目標達成の失敗となる自分自身に起因した要因、つまり、人間の不合理性や、多くの人がある人間の特徴をうまく使って、目的の達成を後押しするという考え。例えば「他者比較」は、知らず知らずのうちに他者と比較し、また、勝利したいと思う人間の本質的な欲求を意味する。省エネのコンテキストに当てはめると、ある家庭と似た家族構成の電力消費量を表示することで、なんとなく勝ちたいという気持ちを誘発させ、省エネを促すもの。また、「損失回避」は、「得られる利得よりも損失の悲しみの方が大きく感じる、という人間の特徴を指す。例えば、『〇〇(具体的な省エネ行動)をすれば一年間でXX万円節約できます』というメッセージよりも、『〇〇をしなければ、一年間でXX万円損をします』といったメッセージ

の方が省エネ行動を促すことができる、という考え方である。池田町でも、電気使用量の比較などを使って、楽しく進めたい。ただしこれ以上節電できない家庭もあるので、任意性の仕組みで、電力消費量を抑えたら域内利用限定でのクーポン提供などの施策をするのが良いのではないか。池田町の目標から逆算して、家庭構成を仮定して削減目標量を家庭向けに示して、省エネをしてもらうことでも十分。

- ・企業や団体が環境経営に熱心であればあるほど、そこに所属している人は家庭で、より省エネ行動を実践する傾向がある。長く身を置く環境で実践していることというのは、家庭にも持ち帰り実践するということがある。

## (5)交通について

- ・R5年末の冠山峠道路の開通は非常に大きな変革と言える。外部から来た人々に対してどうアプローチするかという指針についても示して欲しい。
- ・観光で来られる方に対しても電気自動車の利用などの具体的な行動変容を促すような施策を書いた方が良い。特に、グリスロ（グリーンスローモビリティ）的なデザインについても踏み込んで加えていくと良い。
- ・宇奈月温泉で運行している10人乗りの電気バスは、温泉地のような観光地に必要な移動手段という視点。温泉街という狭いエリアを低速で運行することを想定している。
- ・地域の高齢者施設などでは利用者を個別に送迎する車というのが大体は過剰に準備されている。一つにまとめて、民業を圧迫しないやり方で委託＝デマンドタクシーとサブスクプラン（乗り放題プラン）など作ってみるのもいいと思う。
- ・住みやすい池田町、安心して住める池田町として、最後まで生きていくために必要なものを整えていくという意味で言っても、公共交通として地域の人々の移動を確保する施策は重要。
- ・池田町は大きな面積を抱えながらもコンパクトなまちづくりを進めてきており、モデルになる力をもっている。公共交通や地域計画というものをさらに考えて、エコタウンとしての見せ方、表現を考えるべき。逆に、ここに住まいを設けて外に働きに出るような暮らし方も考えられるのではないか。こうした点も狙えるような政策も入れていければよいのでは。